

## 2 追 跡

この追跡は昭和59年12月31日までの調査結果であり、対象魚は表5に示した川平湾に9月11日と11月15日に放流した群と名蔵湾に9月19日と11月15日に放流した群である。

調査方法は漁業者や遊漁者からの再捕報告を主体に標本船5隻（川平湾：刺網1隻，名蔵湾：刺網2隻，定置網2隻），市場調査、刺網による試験操業によって行った。なお，放流直後の標識魚の行動や状態について潜水観察を行った。

### (1) 放流直後の潜水観察

川平湾での放流は2回とも放流魚を収容した生簀網を取りはずしていっせいに放流した。放流魚は大部分保護網の中にとどまっていた。潜水者がおどすと網目からぬけ，5～10尾の群を作って一直線に海底に向かった。追跡は海底から2～3mまで泥で濁っていたため不可能になった。

尾叉長約80mmの放流魚では15mmアンカータグの負担が大きく、頭部を上にする泳ぎ方をするものが目だった。15mmアンカータグを装着するには尾叉長100mm以上が望ましいと思われる。

名蔵湾崎枝地先での潜水観察は岸から放流約1時間後に実施したが，3～5尾の群3グループを岸近くの石の下に観察したのみで，100mm沖までの約1時間の観察で他の放流魚は発見できなかった。名蔵湾のフェフキダイ類小規模増殖場における放流は船上から約350尾づつ3回直接放流した。放流魚は一直線に海底に向かい，海底から約20cmのところを約100尾の群を作って，サンゴ礁の間を泳ぎ回った。この一群（約100尾）を約1時間追跡した。この群は最初に約10cmのオジサン（ヒメジ科）におどかされて約50尾づつの2群に分かれたので，一方の群を追跡した。追跡中に約50尾の群から6尾捕食されるのを観察した。捕食魚はアカカマス（1尾捕食），マダラエソ（4尾捕食），アオヤガラ（1尾捕食）であった。潜水観察は短時間であったが，食害による減耗が大きいことがうかがわれた。これは放流魚が57mmの小型魚で捕食魚の食べごろの大きさであったことや腹鰭抜去の傷が回復しておらず異常な泳ぎ方をする個体が群の中にいたことなどが主な原因であると思われる。

今後は腹鰭抜去の傷が完全に回復してから放流することや小型種苗は隠れ家のある藻場や捕食魚の少ない場所に放流するなどの対策が必要であろう。

### (2) 移 動

川平湾での再捕結果を表6に，再捕位置を図4に示した。

川平湾での再捕尾数は28尾（再捕率1.2%）で，アンカータグ標識魚のみであった。その中の21尾が再捕された。放流地点から500m以内の地点で再捕された。放流翌日に13尾，2日後に7尾，50日後に3尾まとまって刺網で再捕されているので，比較的長期間群行動があるものと思われた。移動は放流後50日目まで放流地点から1.5km以内に滞留しており，移動距離は小さいと考えられた。移動方向は放流地点から湾口に向かって遠ざかる傾向があった。再捕場所はいずれも水深1～4mの砂地であった。

名蔵湾における再捕状況および再捕位置を図5に示した。再捕尾数は7尾（再捕率0.2%）で，

表6 川平湾における標識魚再捕結果

放流場所 放流月日	再捕時期	経過 日数	移動距離 (km)			再捕漁具 刺網	計 (%)
			0~0.5 未満	0.5~1.0 未満	1.0~1.5 未満		
川平湾中央部 59年9月11日	9月11日~21日	0~10	21	—	—	21	21(7.5)
	9月22日~10月1日	11~20	—	1	—	1	1(3.6)
	10月2日~11日	21~30	—	2	1	3	3(10.7)
	10月12日~21日	31~40	—	—	—	—	—
	10月22日~31日	40~50	—	—	3	3	3(10.7)
計 (%)			21(75)	3(10.7)	4(14.3)	28(100)	28(100)

アンカータグ標識魚であった。再捕場所は水深3~4mで、底質は砂や礫であった。放流後31日目に定置網で4尾まとまって再捕されているほか、59日目までに定置網で1尾づつ3尾再捕された。移動は放流後55日目に0.7kmと59日目に2.1kmの地点で再捕されているので、川平湾同様、移動距離は小さいものと思われた。移動方向も川平湾同様、放流地点から湾口に向かって遠ざかる傾向があった。

川平湾では10月31日、名蔵湾では11月17日以後再捕がない。これは尾叉長115~170mmに成長したハマフエフキの天然幼魚は水温の下降に伴って離岸し、5~15m海域で越冬するという報告があり、主として水深5m以浅で操業している刺網や定置網(建干網)では漁獲されないものと思われた。その他、アンカータグ脱落による識別の不可能や食害による減耗、湾外への移動の可能性もある。今後の再捕は越冬後天然幼魚は4月~6月に接岸することや前年放流魚のアンカータグが3月に刺網で羅網された記録があることから、春期の調査に期持したい。

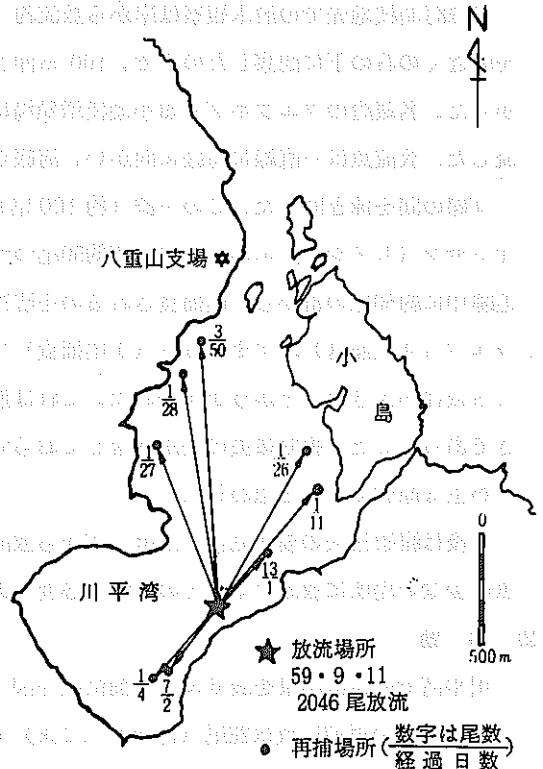


図4 名蔵湾における標識魚の再捕